NEWS RELEASE
報道関係各位

2022 年 1 月 25 日

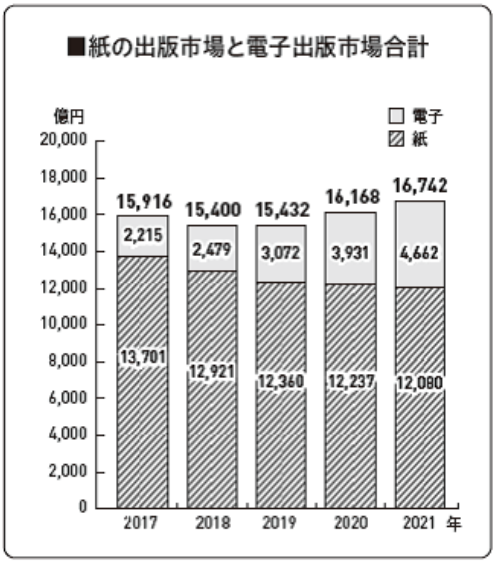
出版月報
a monthly report of publications

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所

2021 年の出版市場を発表
紙＋電子は 3.6%増の 1 兆 6,742 億円、電子と紙書籍の伸長で 3 年連続のプラス

出版業界の調査・研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区、理事長：浅野純次）は 2021 年（1～12 月期累計）の出版市場規模を『出版月報』1 月号（1 月 25 日発売）で発表しました。

紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年比 3.6%増の 1 兆 6,742 億円と 3 年連続でプラス成長となりました。電子出版が同 18.6%増と引き続き拡大、紙の書籍も同 2.1%増と 15 年ぶりに増加に転じました。出版市場全体における電子出版の占有率は、27.8%。前年の 24.3%から 3.5 ポイント上昇し、3 割に迫っています。



□ 紙市場は 1.3%減、書籍が 15 年ぶりの前年増

2021 年の紙の出版物（書籍・雑誌合計）の推定販売金額は前年比 1.3%減の 1 兆 2,080 億円。内訳は、書籍が同 2.1%増の 6,804 億円、雑誌が同 5.4%減の 5,276 億円。上半期は、20 年がリアル書店休業の影響で落ち込み、巣ごもり需要が 21 年も続いたため、プラスに推移。しかし新型コロナの感染状況が落ち着いた秋以降は書籍・雑誌ともにマイナスとなりました。

書籍は、児童書、文芸書、中学学参、語学・資格書などが前年を上回る好調な売れ行きで、06 年以来のプラス成長となりました。また返品率が 32%台まで改善。書籍全体の価格上昇も販売金額の上乗せに影響しました。動画投稿アプリ「TikTok」での紹介を機としたヒットや「YouTuber」の書籍が売れるなど、Web 活用の動きも目立ちました。

雑誌は厳しい状況が続いています。月刊誌（コミックス、ムック含む）が同 4.5%減、週刊誌が同 9.7%減。月刊誌のうち、定期誌は約 7%減。21 年はコロナ禍での刊行延期・中止がほぼなく、通常通りに刊行されましたが、部数減が続き、休刊誌も多いです。紙媒体での刊行を終え、情報発信の軸足を Web や SNS に移す動きが顕著になっています。コミックス（単行本）は約 1%減。20 年は『鬼滅の刃』（集英社）ブームで 2 割増となりましたが、21 年は微減にとどまりました。

□ 電子出版市場はコミックの拡大が続く

2021 年の電子出版市場は前年比 18.6%増の 4,662 億円と、大幅に増加しました。内訳は、電子コミックが同 20.3%増の 4,114 億円、電子書籍が同 12.0%増の 449 億円、電子雑誌が同 10.1%減の 99 億円。

コミックは各ストアでユーザーが増え続け、『東京卍リベンジャーズ』（講談社）など映像化作品がヒットしたことに加えて、韓国発の縦スクロールコミックに勢いがあり、2 割増となりました。電子市場におけるコミックの占有は 88.2%（前年より 1.2 ポイント増）と 9 割に迫る勢いです。

書籍は、各ストアでのセール、キャンペーンによる売れ行きが例年よりも大きく伸長しました。佐伯泰英など作家の電子化解禁の動きも続いています。雑誌は読み放題サービスの会員減で、4 年連続で二桁マイナスとなりました。

※電子出版市場規模は、読者が支払った金額を推計したもの。広告収入は含まない。雑誌には定額制読み放題サービスを含む。

＜本件に関するお問い合わせ＞ ※本レポートの詳細は、『出版月報』2022 年 1 月号（頒価 2,200 円）に掲載しています。

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所　担当：久保、水野
〒162-8710　東京都新宿区東五軒町 6-24　TEL 03-3269-1379　FAX 03-3266-1855　https://www.ajpea.or.jp